

研究課題名	大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ORION）の収集データを用いた搬送患者に含まれる低血糖の潜在性の研究
研究の意義・目的	低血糖は様々な症状を呈しますが、血糖測定により低血糖を疑うことが可能です。血糖測定も非常に容易ですぐに行うことができます。低血糖が遷延すると後遺症を発症する可能性があり、迅速な対応が望まれます。そこでどういった症状で、どの程度低血糖の方がいるのかを調べ、低血糖の方への治療を迅速に行うためには、どのようにすればよいのかを大阪府から情報提供をうけて研究します。
研究を行う期間	倫理委員会承認後から 2023 年 3 月まで
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2016年1月1日～2020年12月31日の間に大阪府内で救急搬送された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	ORION データ第三者提供の審査に関する部会の承認を受け大阪府より提供を受けて研究します。研究にあたって、以下を使用します。 ① 患者基本情報：年齢、性別、バイタルサイン、診断コード、JCS（ジャパン・コーマ・スケール）、転帰 ② 実施基準判定情報：視力障害、片側の運動麻痺、片側のしびれ感、失語・構音障害、片側の失明、運動失調の有無 ③ その他：事故種別、曜日、入電、現場到着、現場出発、病院到着、選定までの連絡回数
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科救急医学のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院救急医学のみで行います。 研究責任者 大阪市立大学医学部附属病院 野田 智宏 【ORION データ第三者提供の審査に関する部会】 りんくう総合医療センター 中尾 彰太 大阪大学大学院医学研究科 北村 哲久 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 片山 祐介 大阪大学大学院医学系研究科 佐道 准也 関西医科大学附属病院 高橋 弘毅 近畿大学医学部附属病院 植嶋 利文 りんくう総合医療センター 安達 晋吾 大阪急性期・総合医療センター 木口 雄之 大阪医科大学附属病院 太田 孝志 http://www.pref.osaka.lg.jp/iryu/qg/orion_teikyo.html
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科・救急医学・研究責任者 野田 智宏
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 救急医学 (担当者氏名) 野田 智宏 電話番号：(06) 6645—3987 メールアドレス：tomo-no@med.osaka-cu.ac.jp
-----	---